

声で話せる相談役キット 使い方 v1.0

GPT Live (OpenAI の音声モデル) に声を、Claude Code に考える部分を任せて、「考え方の資料」を持たせた相談役と声で話すためのキットです。株式会社スターストリーム・スタジオ

1. 中に入っているもの

- `server.js` … GPT Live と Claude Code をつなぐ小さなサーバー
- `thinker.js` … Claude Code を立ち上げたままにして、相談だけを渡す部分
- `index.html` … 話すための画面（話した言葉と答えが文字で流れる）
- `persona/example.md` … 動作確認用の見本（架空の相談役）
- `persona/template.md` … 自分の資料を書くための空のひな形
- `.env.example` … APIキーを書くファイルのひな形
- `使い方.md` … このファイル

2. 用意するもの

- パソコン (Windows / Mac)
- Node.js 18 以上 (`node -v` で確認)
- Claude Code (サブスクリプションでログインしてあること。 `claude` と打って起動できれば OK)
- OpenAI の API キー (GPT Live は無料枠では使えません。最初に5ドル分のクレジットを買います)
- マイクとスピーカー (イヤホンだと相手の声をマイクが拾わず、会話が安定します)

3. OpenAI の API キーを取る (約7分)

1. <https://platform.openai.com/> に、ChatGPT と同じアカウントでログインする
2. 左のメニューの「Billing」→「Add payment details」でカードを登録する
3. 次の画面で、最初に買う金額を **5ドル** にし、**自動チャージ (Auto-reload) をオフ** にする（初めは「10ドル・自動チャージがオン」。そのままだと、残高が減るたびに自動で買い足される。支払いは税込みで 5.50ドルだった）
4. 左のメニューの「API keys」→「Create new secret key」で名前を付けてキーを作る（有効期限は、試すだけなら7日か30日にしておく）
5. 表示されたキー（`sk-` で始まる）をコピーする。この画面を閉じると2度と見られません

4. 動かす

1. このフォルダの `.env.example` を複製して、名前を `.env` にする
2. `.env` の `OPENAI_API_KEY=` の後ろに、コピーしたキーを貼って保存する
3. このフォルダでターミナルを開き、次を打つ

```
node server.js
```

4. 「準備ができました」と出たら、ブラウザで `http://localhost:8787` を開く
5. 「話しはじめる」を押し、マイクの使用を「許可」する
6. 「聞いています」になったら、相談を話しかける
7. 終わったら「終わる」を押し（料金は話している間ずっとかかります）

★ 声なしで、考える部分だけを先に試すこともできます（料金はかかりません）。

```
node thinker.js persona/example.md "新しい事業に手が回りません。何から削るべきですか？"
```

5. 料金と速さ（作者の環境での実測）

- 声の部分（GPT Live）：1分 0.05ドル（約7.5円）・秒単位。つないだ最初に15秒分が先にかかる
- 考える部分（Claude Code）：サブスクリプションの範囲。追加の料金なし
- 3往復話した157秒で、約0.13ドル
- 質問を言い終えてから本題に入るまで：約3〜4秒（Claude Code が考えた時間は約3秒）
- 考える部分のモデル：Sonnet がいちばん速い（Opus は約1.5倍遅い。Haiku は字数を守らず遅かった）。変えるときは `THINK_MODEL=opus node server.js` のように起動する

6. 自分の「考え方の資料」を作る

相談役の中身は `persona/` の資料です。作り方は、素材選びから試すまでの5段階。

6-1. 素材を選ぶ

本人が**自分の言葉で長く話している場**を選びます。講演・株主総会・決算説明会・1時間を超える対談・本人が書いた長い文章などが向いています。ニュースの切り抜きや名言集は使いません。短く編集されると、言い切りだけが残って判断の理由が落ちるからです。

6-2. 文字起こしを集める（Claude Code への頼み方）

次の動画の字幕（なければ文字起こし）を取って、1本ずつテキストファイルに保存してください。
ファイル名は「日付_タイトル」にして、最初の行に動画のURLと長さを書いてください。
（ここに動画のURLを並べる）

6-3. 考え方を書き出す（Claude Code への頼み方）

transcripts フォルダの文字起こしを全部読んで、この人の考え方を persona/template.md の形で書き出してください。

守ること：

- 本人が実際に言ったことだけを書く。推測で埋めない
- 各項目の最後に、出どころ（どのファイルの何分ごろか）を書く
- 繰り返し出てくるものを優先する。1回しか言っていないことは「1回のみ」と書く
- 話し方（一人称・語尾・問いかけの癖）も、実際の言い回しから拾う

6-4. 元の発言で確かめる（Claude Code への頼み方）

persona の各項目について、書いてある出どころの文字起こしを開き、本当にそう言っているかを1つずつ確かめてください。

言っていない・言い方が違う項目は、直すか消して、何を直したかを一覧にしてください。

AI は、それらしい言葉を作ってしまうことがあります。この確認は飛ばさないでください。

6-5. 試す

資料ができたなら、声なしで考える部分だけを試します。

```
node thinker.js persona/自分.md "最近いちばん迷っていること"
```

本人ならどう答えるかを知っている質問を3つほど投げて、答えの向きが合うかを見ます。合わなければ、資料のどこが足りないかを足していきます。

7. 気をつけること

- 実在の人物の名前や声を出して、公開したり集客に使ったりしない。自分で相談するために使うか、公開するなら自分自身や了承もらった人の資料で作ります
- .env（APIキー）は人に渡さない・ネットに上げない
- 使い終わったら、画面の「終わる」を押してから閉じる

- 録画するときは、マイクとパソコンの音の両方を録る設定にする（そうしないと相談役の声が入りません）

8. うまくいかないとき

- 「.env に OPENAI_API_KEY=… を書いてから起動してください」と出る → `.env` の名前と中身を確認する
- 接続エラー（401）→ キーの貼り間違い。もう1度コピーして貼る
- 接続エラー（429 や残高の表示）→ クレジットが足りない。Billing で残高を確認する
- 「考える部分でエラー」と出る → ターミナルで `claude` が起動できるか確認する（ログインが切れていないか）
- 相談役が日本語以外で話す → `server.js` の INSTRUCTIONS（声への指示）が日本語のままか確認する
- 答えが長すぎる → `thinker.js` の「150字以内」を短くする